



やぐもだい

令和8年2月27日
調布市立八雲台小学校
校長 石川 淳

<https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>

「気付いてみればすごいかも」

校長 石川 淳

犬を3つのグループに分けて、刺激をあたえた実験があります。Aグループは、逃げないように鎖でつないで刺激をあたえますが、パネルを踏めば刺激が止まるようにしました。Bグループは、同じように刺激をあたえますが、パネルを踏んでも刺激は止められないようにしました。Cグループは、つながただけで刺激はあたえられませんでした。

この後、各グループをそれぞれ飛び越えられる程の低い壁が中央にある部屋に入れて、壁で仕切られた一方の場所に集めて刺激をあたえました。結果、パネルを踏めば刺激が止まっていたAグループと、刺激をあたえなかったCグループの犬たちは、すぐに壁を飛び越えて反対側の刺激のない場所に行くことを覚えました。いつも刺激をあたえられ続けていたBグループの犬たちは、壁を飛び越そうとしなかったということです。つまり、刺激を受け続けながら自分では為す術がなかった犬たちは、壁の向こうに行くという選択肢も思いつけない、無力感を身につけてしまったのです。これを学習性無力感といいます。

これと同じように人にも学習性無力感は起こります。たとえば、算数の問題でつまずき、どうやっても解けないままの苦しい経験を積み重ねると、算数を勉強しようという努力を投げ出してしまいます。言葉では「きらい。なんかめんどくさいし。」など呟いていたりします。その様子を見た周囲が「なんでできないんだ、やろうとしないんだ」という言葉をかけると、さらに学習性無力感を強化させてしまいます。強化されると他の場面にも当てはめてしまうので、「自分は何をやってもだめだ」と思い込むようになってしまいます。

小学校の時期に重要なことは「それまではやらなかった事に取り組んで、途中で様々あってもできるようになった」という充実感、達成感、克服感を体験させ「自分って、すごいかも」という自己肯定感を育むことです。3月は令和7年度1年間を振り返り、総まとめをする時期です。一人一人の子どもたちの「今年度のすごさ」を確かめていきます。本年度も、多くの皆さまのご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございました。実質3週間と2日(6年生は3日)となりましたが、子供たちの「もうひと伸び」を支援してまいりますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。

コミュニティスクールコーナー

3月3日(火)に今年度最後の学校運営協議会が行われます。1年間を振り返り、次年度の教育活動について熟議を重ねます。子どもたちにとってより良い八雲台小学校を目指します。